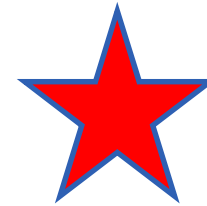


# 令和4年度 学校評価アンケートの分析

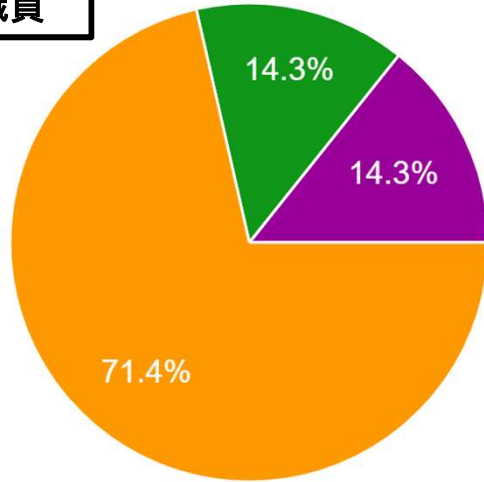


四国中央市立三島東中学校

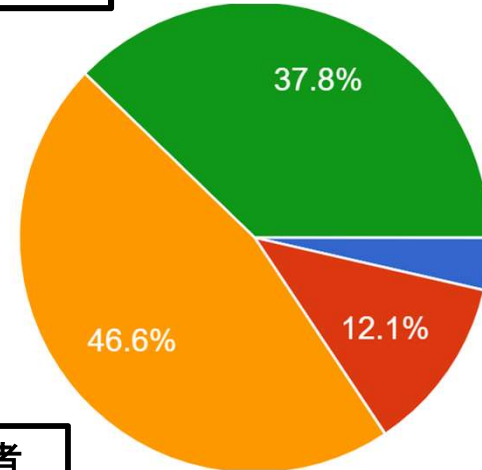


否定的意見が2割以上

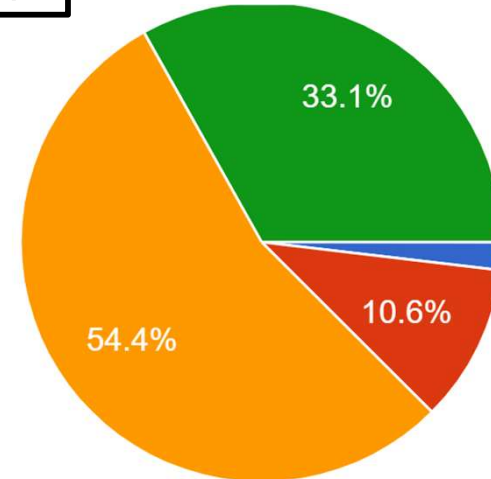
教職員



生徒



保護者



# 1 学期 考察① 学校が楽しい

- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

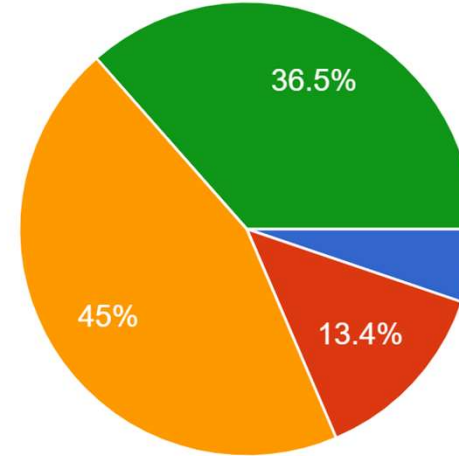
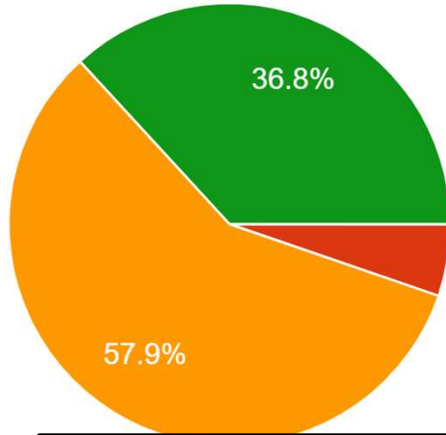
教職員は全体として楽しいと感じているが、生徒も保護者もそう感じていない1割強の存在を見逃さない指導をお願いします。生徒と保護者は傾向が共通していますが、教職員の感覚が乖離しています。

教職員

2 学期

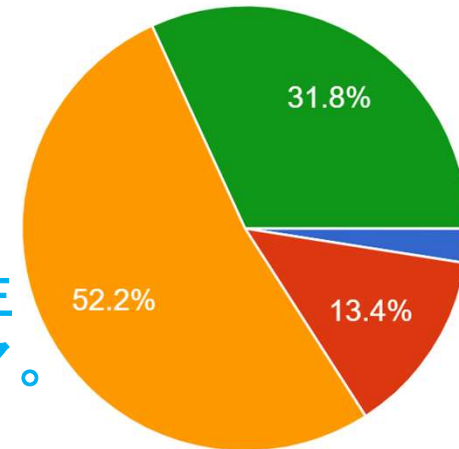
生徒

# 考察①



学校生活を通じて、学校へ来るのが楽しいと感じる割合が減少した。東中の自主活動の減少が原因の一つとなっていると考える

保護者



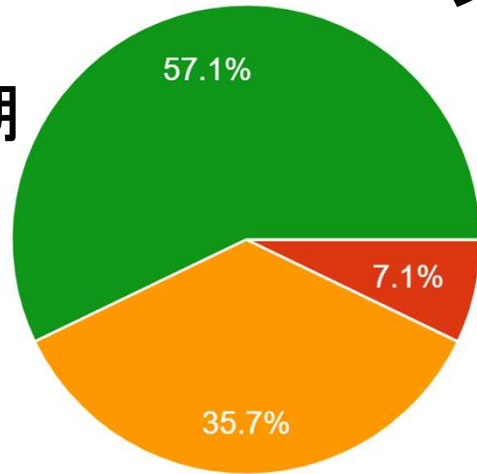
・授業改善により「わかる授業」の提供と生徒間の温かい人間関係づくりは永遠のテーマ。

教職員のみ

# 考察②

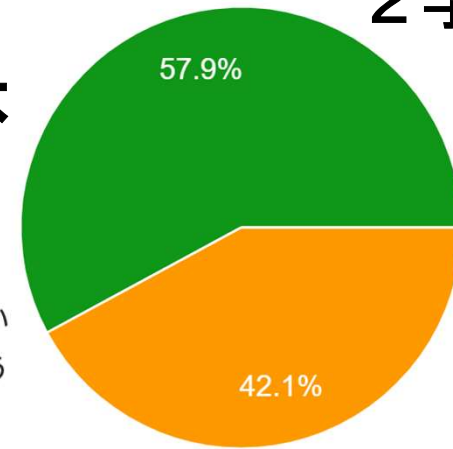
## ねらいの提示

1 学期



- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

2 学期



大部分の教師ができているが、一部の先生ができていない。

ねらいの提示については意識徹底ができており改善されている。



・若年層が成長が徹底につながっていると思われる。

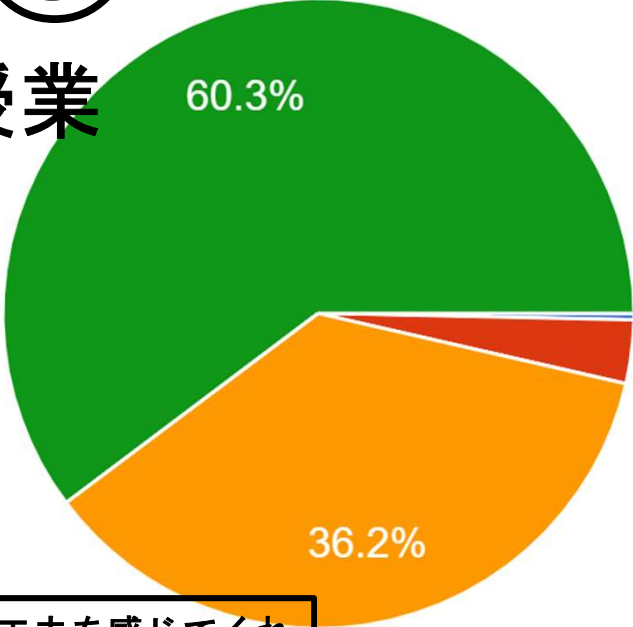
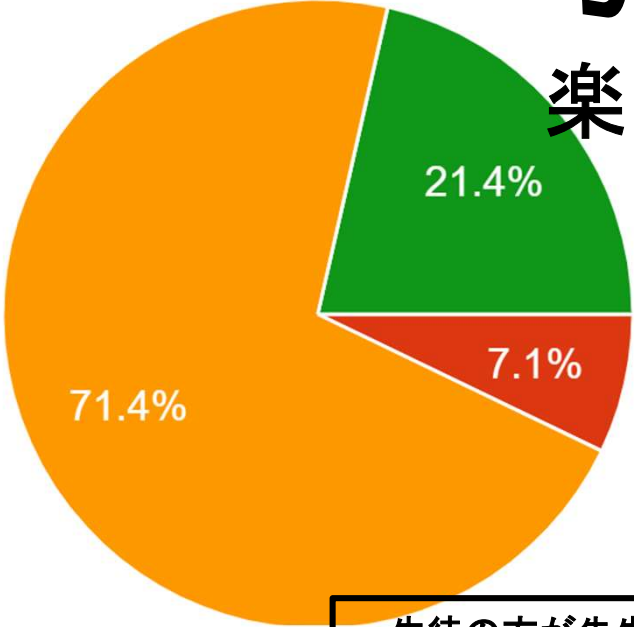
教職員

# 考察③

生徒

## 楽しい授業

1学期



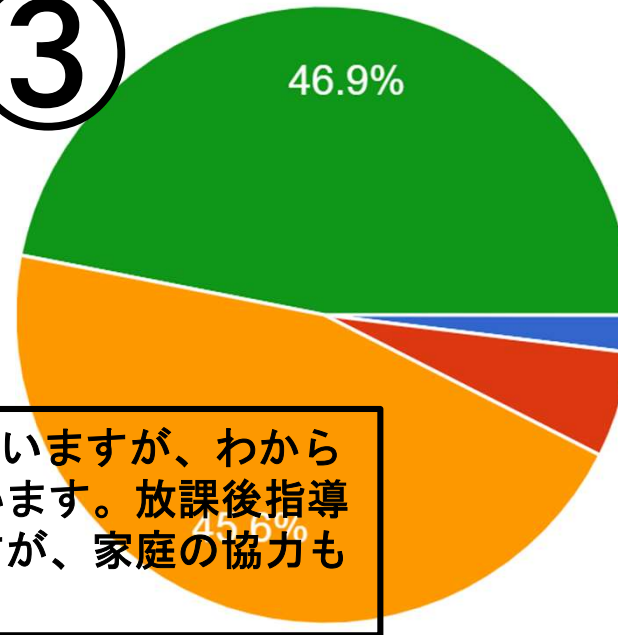
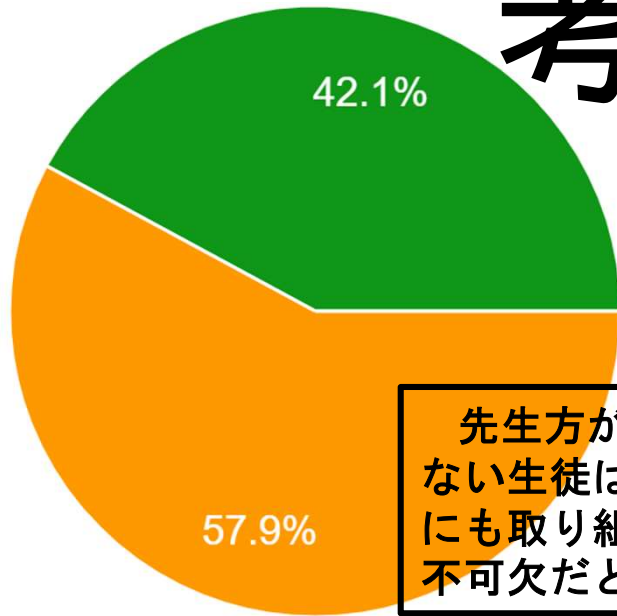
生徒の方が先生方の努力と工夫を感じてくれています。残り少数の楽しいと感じていない生徒にも焦点を当てることを忘れない指導をお願いします。

教職員

2 学期

生徒

# 考察③

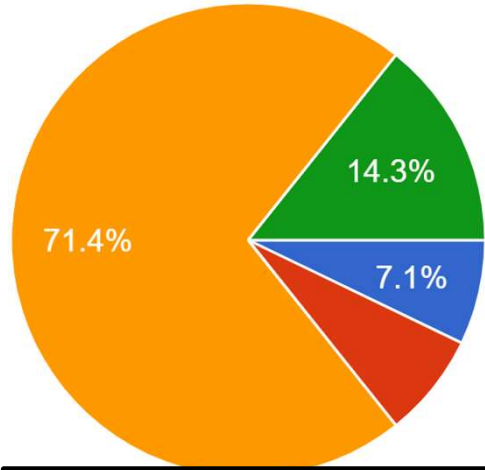


先生方が工夫をしていますが、わからない生徒は増加しています。放課後指導にも取り組んでいますが、家庭の協力も不可欠だと感じます。



- ・ 個別の指導が増加したが、まだまだ学力の不十分な生徒への学力向上の取組が必要。

教職員

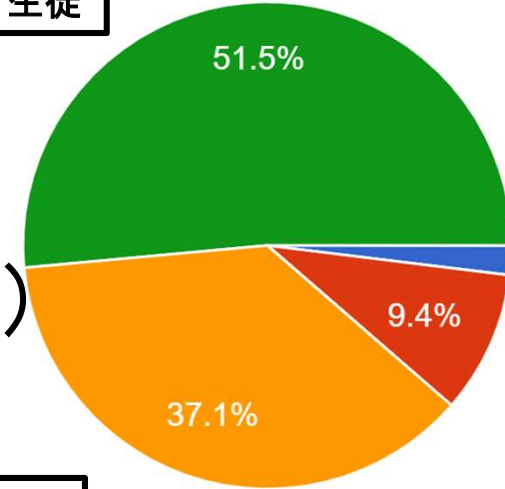


1 学期

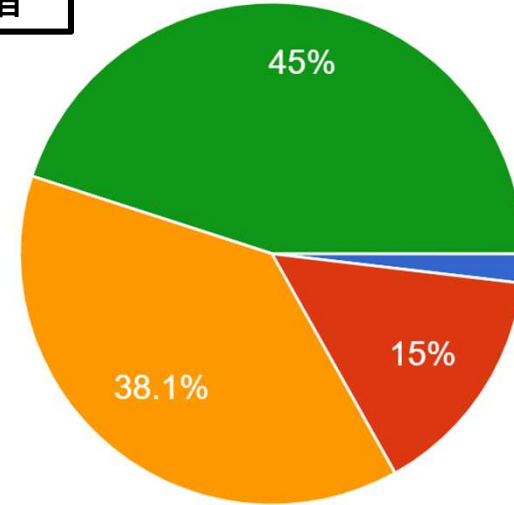
# 考察④

## 家庭学習(宿題)

生徒

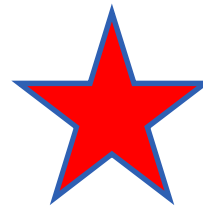


保護者

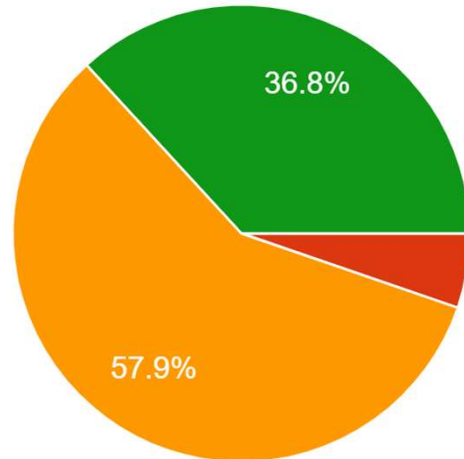


宿題については、課題が多いことが分かる。  
様々な取組が必要である。

- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う



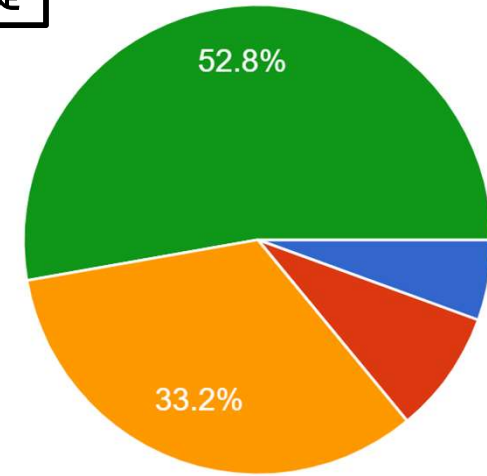
教職員



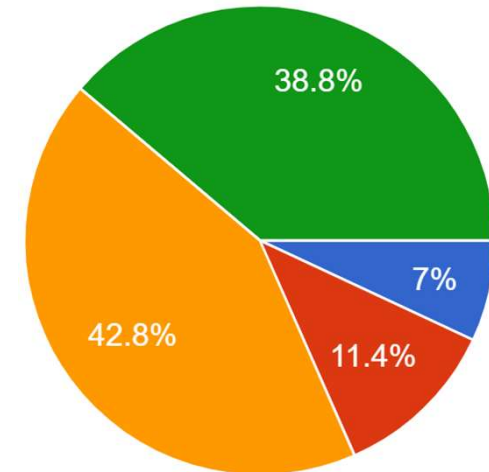
2学期

# 考察④

生徒



保護者



徹底した放課後の忘れ物教室などで教師の意識としては変容を感じ取れているが、実態は変わらない。特に保護者が強くできていないと感じている。

・ 家庭の教育力、小学校低学年からの学習習慣作りが必要である。



教職員

1 学期

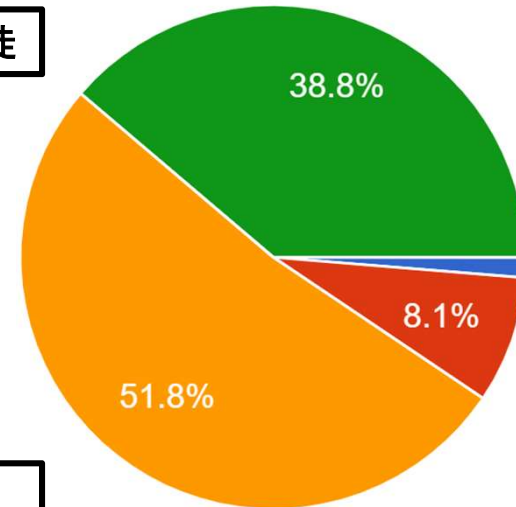
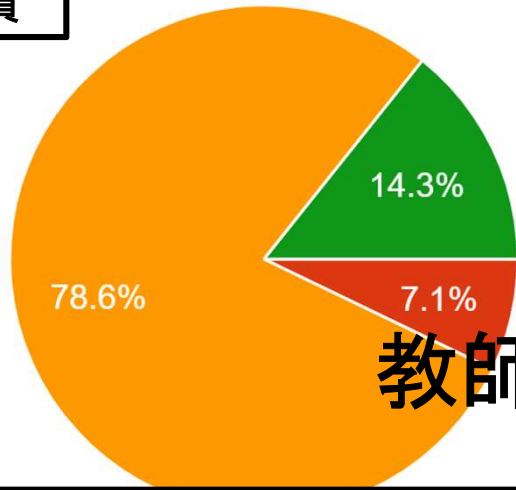
生徒

# 考察⑤

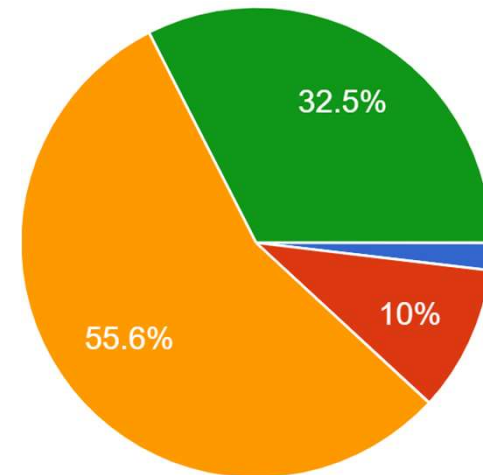
## 教師の生徒理解

生徒理解については前年度と比べて思わない生徒の割合が減少している。小学校時代に学級崩壊等を経験していないことが教師と生徒間のコミュニケーションを円滑にしていると考えられる。

- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえば思う
- 4 そう思う



保護者

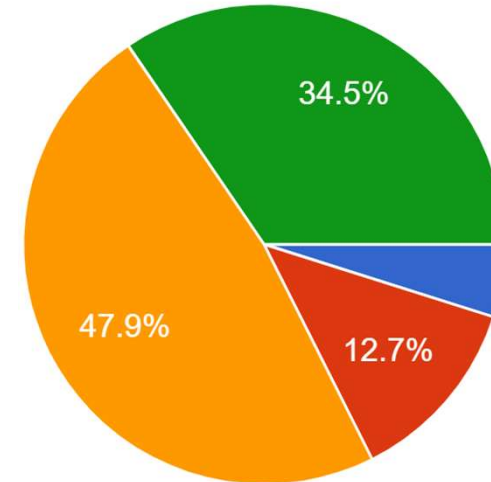
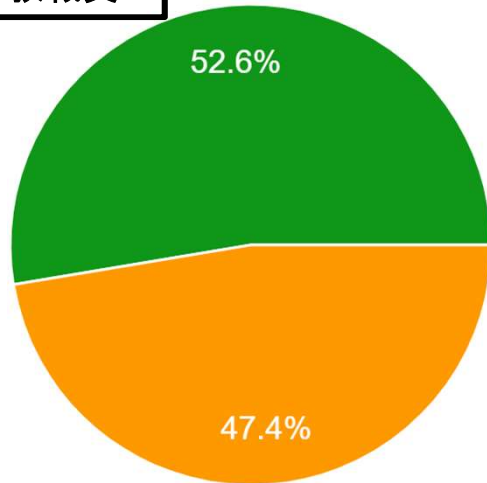


教職員

2学期

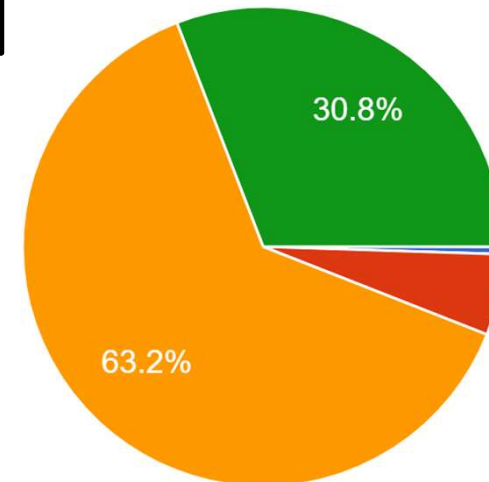
生徒

# 考察⑤



生徒理解については教職員と保護者の数値が上がっていることが成果である。生徒については少数であるが増加している。

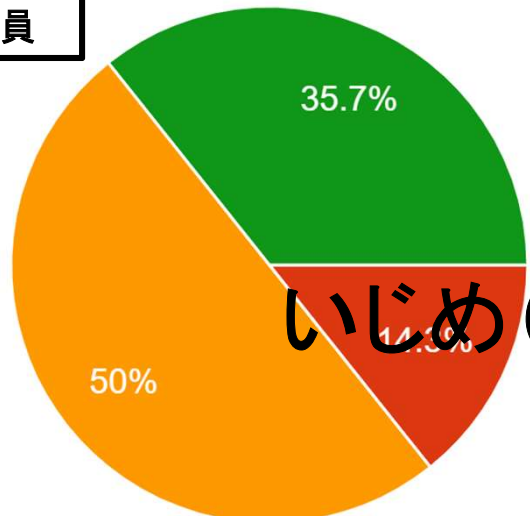
保護者



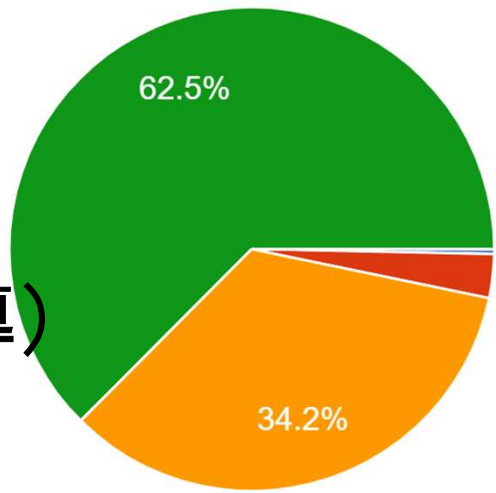
・指導の裏側に愛情の裏付けを持たせる。「寛と栗」が必要。

# 1 学期 考察⑥

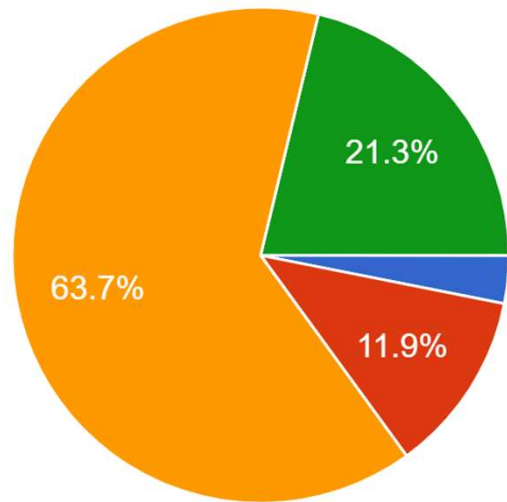
教職員



生徒



保護者

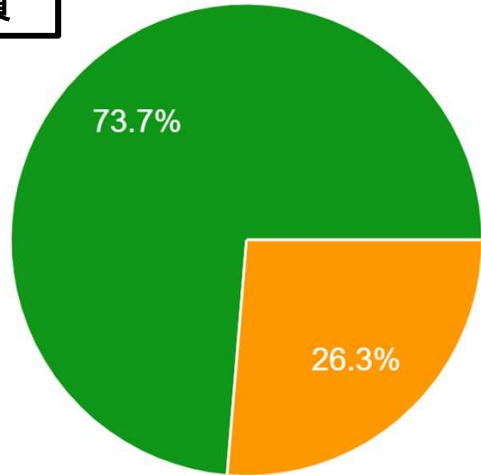


## いじめ(毅然とした指導)

大半の生徒が先生はいじめのない学級づくりに努めていると感じている。この9割を更に育てる必要がある。

- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

教職員



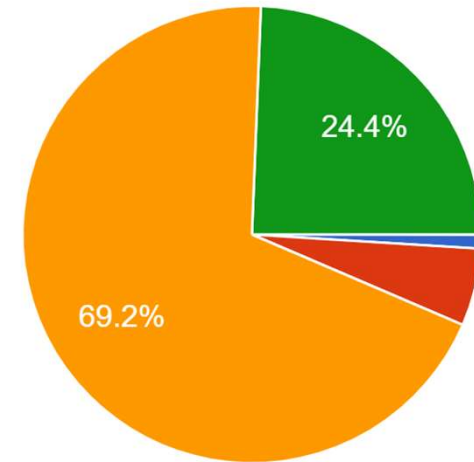
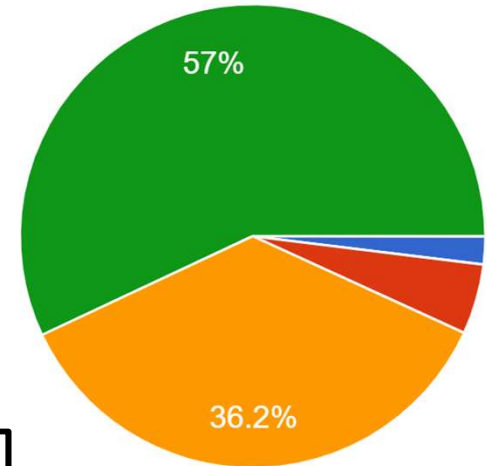
2 学期

生徒

# 考察⑥

- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

保護者

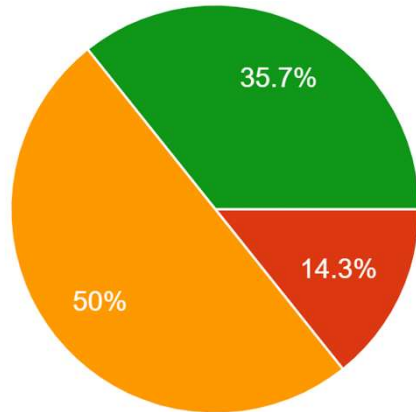


教職員の意識は大きく向上している。保護者についても上昇している。しかし、否定的な生徒がいることも事実。

・項目の中では良好な部分であるが、そう思われていない少数の生徒、保護者に視点をあてる必要がある。

# 1 学期 考察⑦ 進路指導

教職員

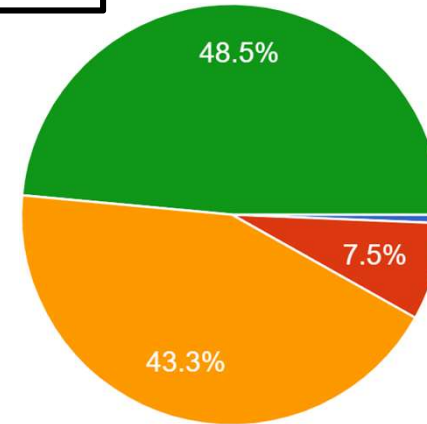


教育相談等で本人の夢などについての進路相談がより必要である。

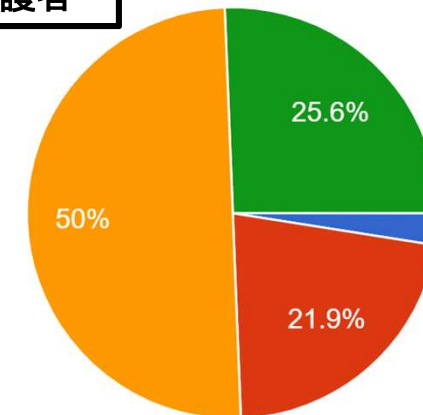
- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う



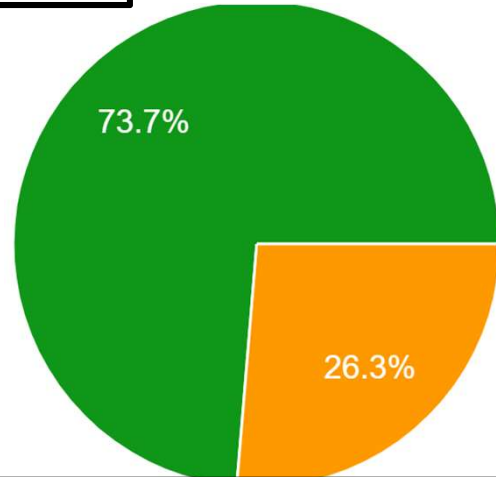
生徒



保護者



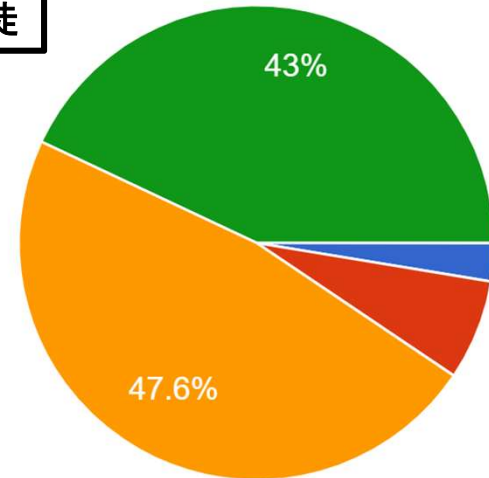
教職員



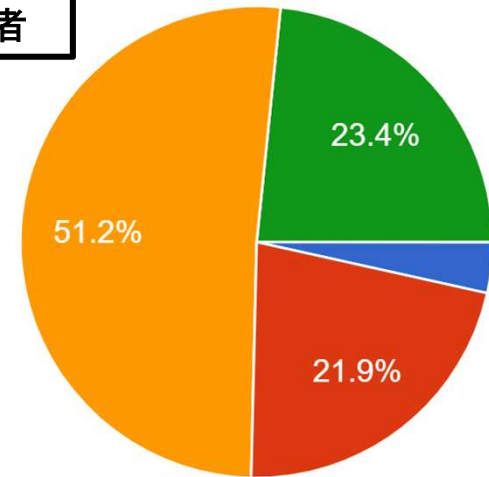
2学期

# 考察⑦

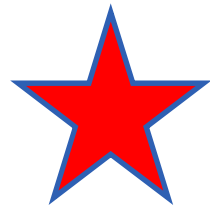
生徒



保護者

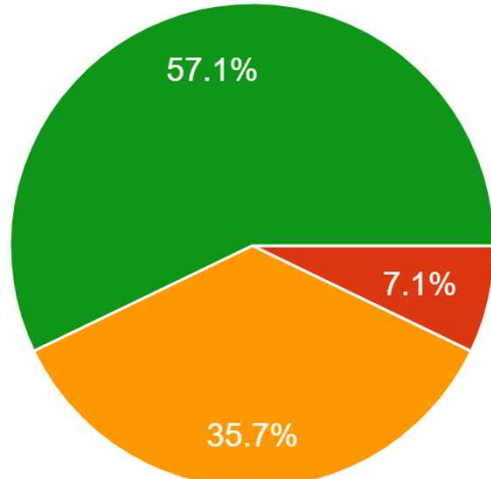


教師は大部分が良好であるにとらえている。  
 また、保護者は子供とのコミュニケーションが  
 上手くとれてないと感じている。考察⑮につい  
 ても関連あり。



・少数の不信感のグループを減らすこ  
 とに大きな課題あり。

教職員

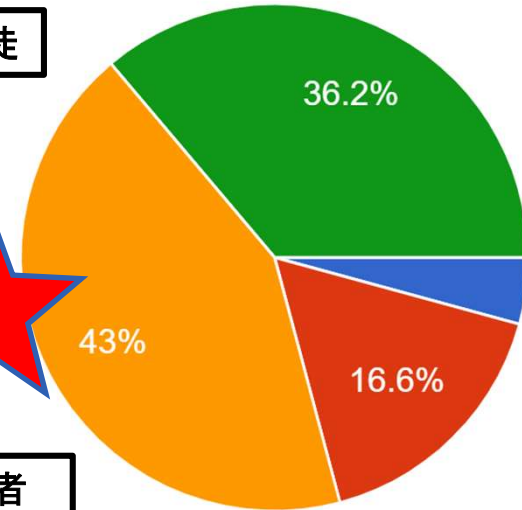


1 学期

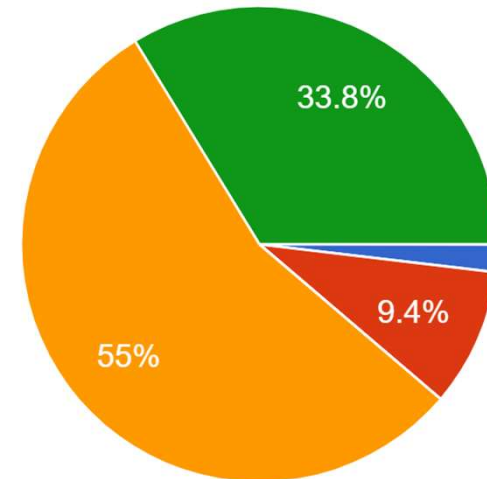
# 考察⑧

## 明るいあいさつ

生徒



保護者



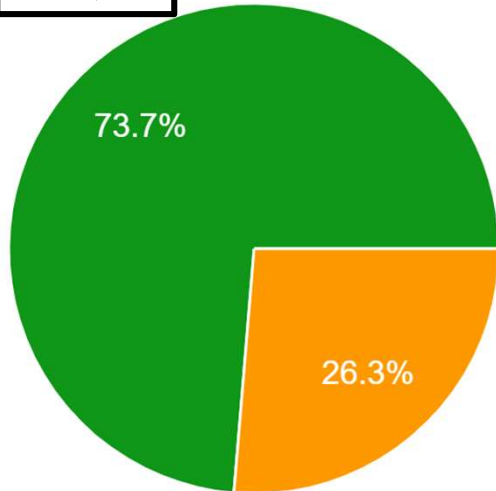
あいさつについては本校の指導の柱の一つである。今後も継続して指導をお願いします。

- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

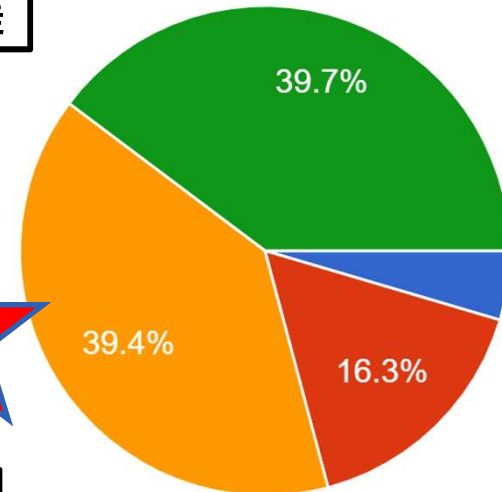
2学期

# 考察⑧

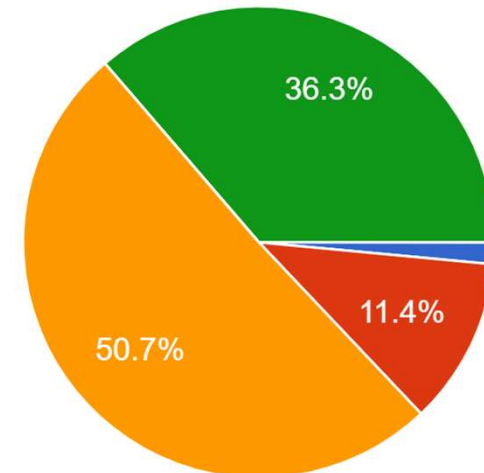
教職員



生徒



保護者

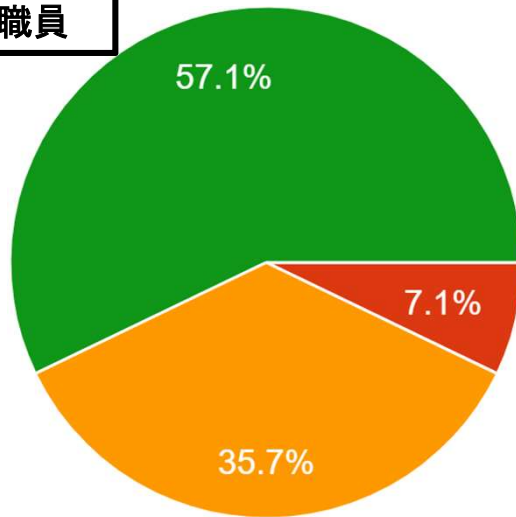


コロナ感染症対策のために、大きな声を出すことが否定されたために、例年と比べてマイナスの結果となったと思われる。

・ 一回の指導では変わらないため、継続した指導と賞賛する必要あり。

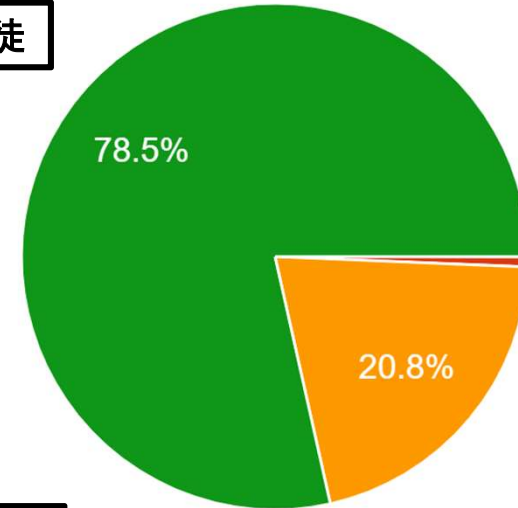


教職員

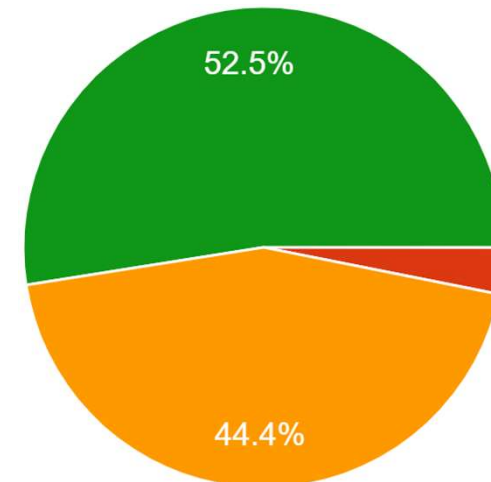


# 1学期 考察⑨ 交通ルール

生徒



保護者



交通の指導については、一握りの生徒に限られている。命に関わる指導であるので、少数であっても、根気強く指導願いたい。

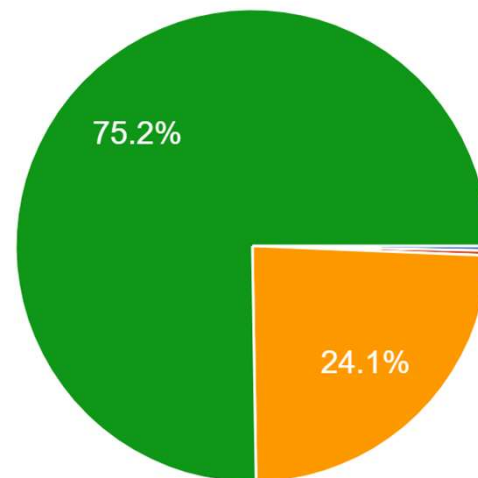
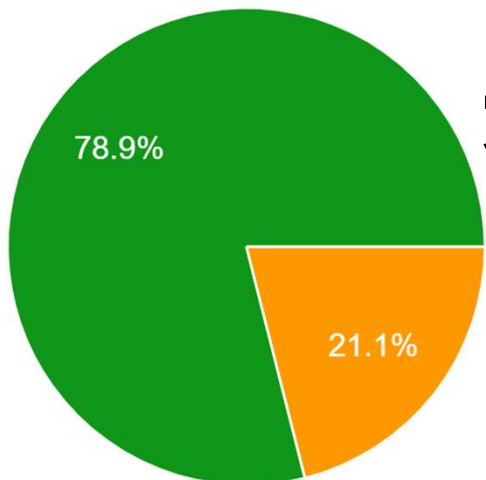
- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

教職員

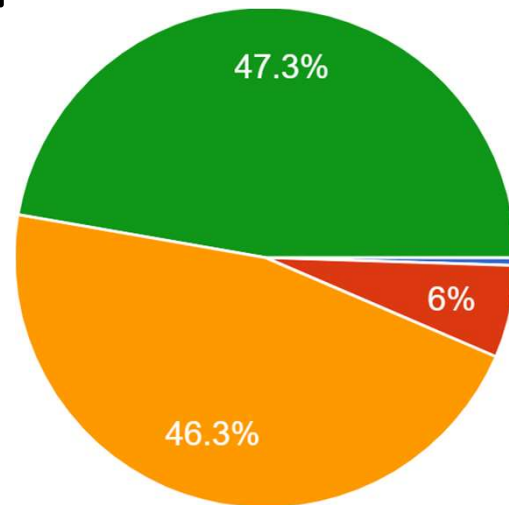
2 学期

生徒

# 考察⑨



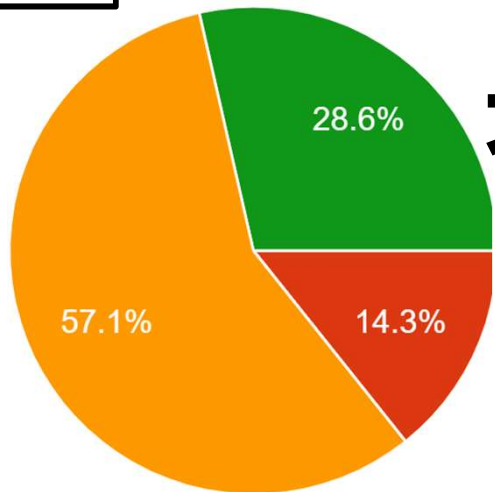
保護者



変わらず少数の生徒の規範意識が課題であるが、意識が低下している部分がある。

・ 生徒の規範意識は高い。命に関わる問題のため、少数を見逃さない継続した指導を。

教職員

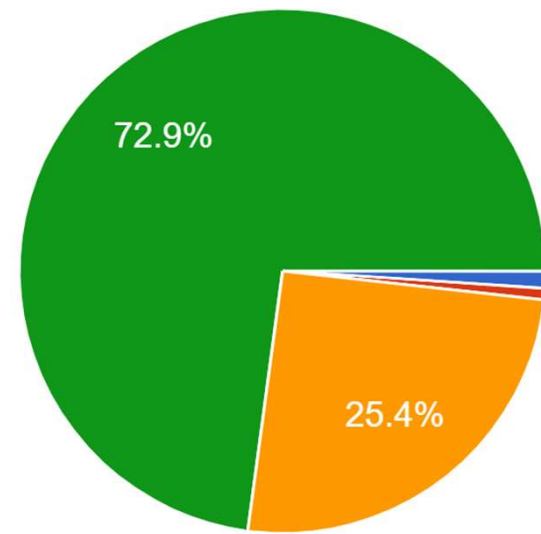


1 学期 生徒

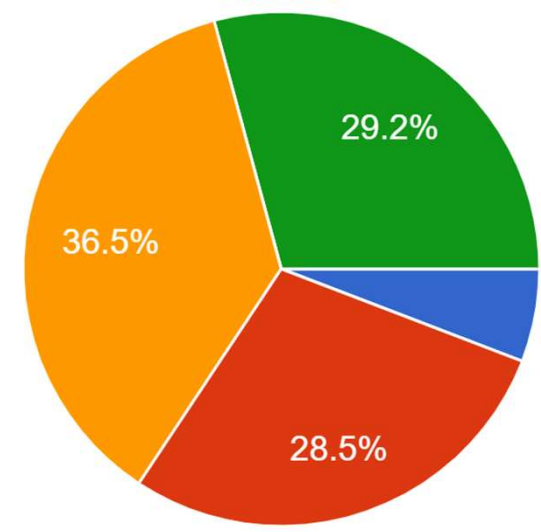
# 考察 10

## 情報モラル

生徒

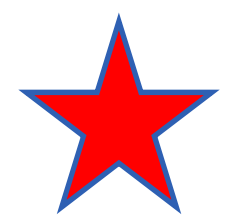


保護者



最近の課題の一つが情報モラルである。一番生徒に近い保護者が強く感じている。ある部分家庭の責任であるが、ICTの活用のためには、指導が必要である。

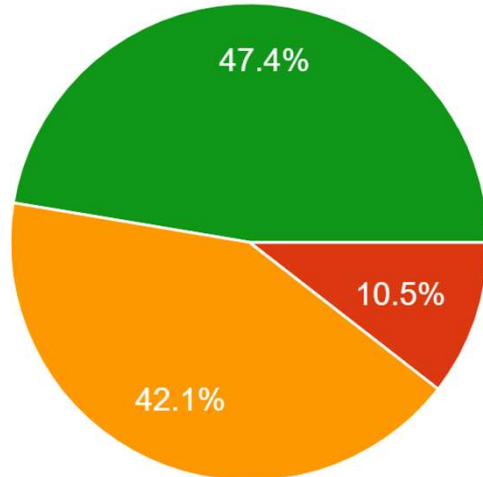
- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う



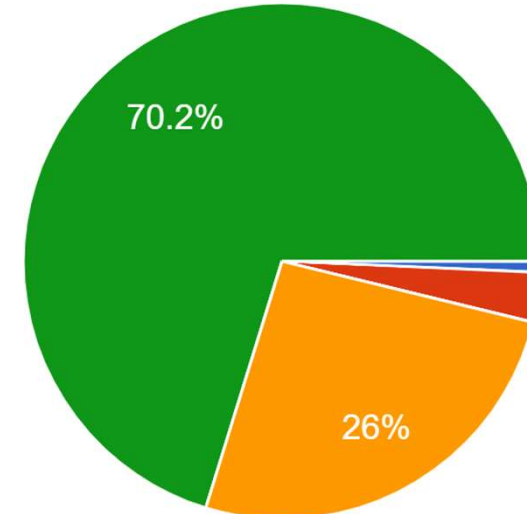
教職員

2 学期

生徒



# 考察⑩

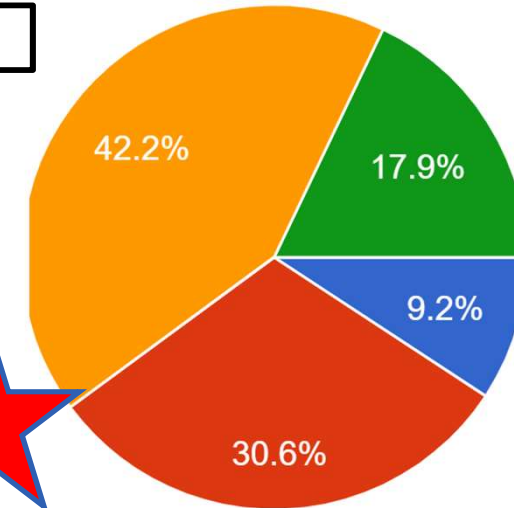


一人一台タブレットの時代となり、学校教育でも情報モラルを組織的に取り組む必要あり。



・今後の大きな課題である。大人は危惧しているが、生徒は自己認識が甘い。

保護者

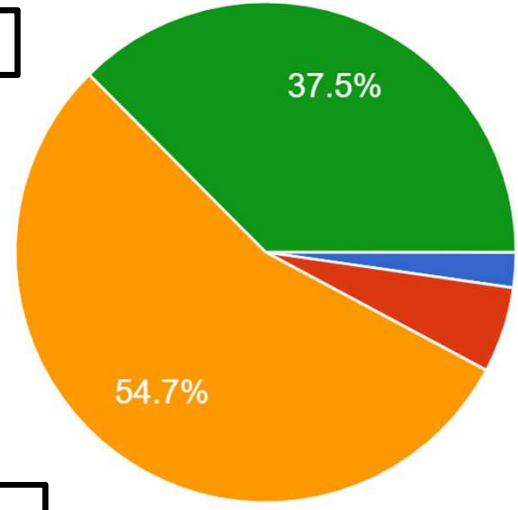
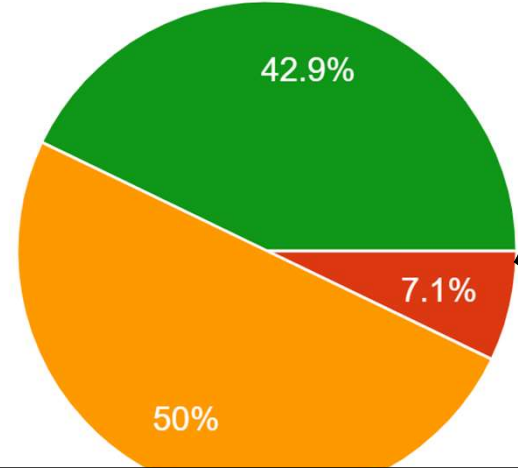


教職員

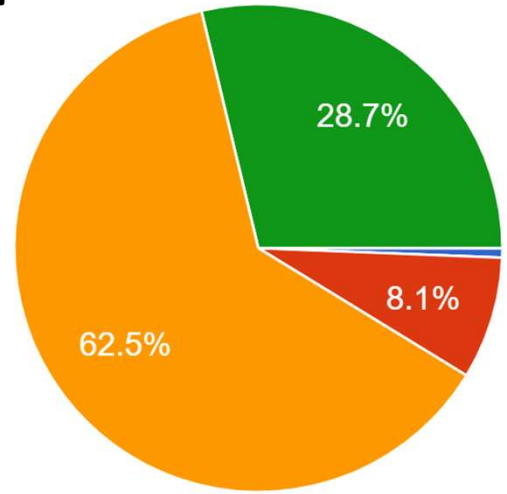
1 学期

生徒

# 考察⑪ 思いやりの心



保護者

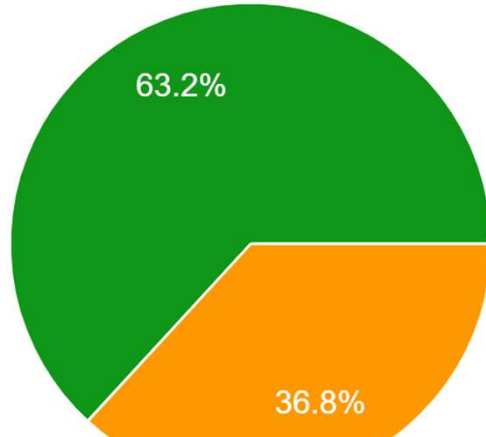


集団として捉えると思いやりがあると言える。  
しかし、約1割の生徒・保護者がそう思っていないところに焦点をあてたい。

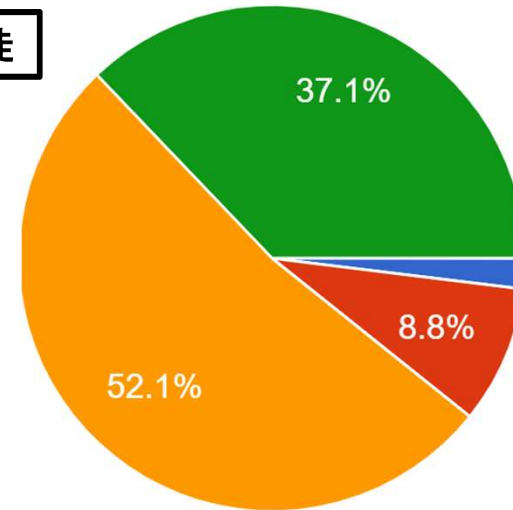
- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

# 2学期 考察⑪

教職員

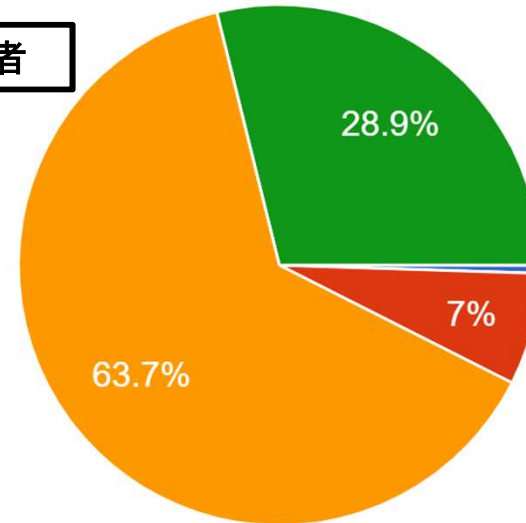


生徒



1学期と変わらず1割の生徒について変わらない状況である。

保護者



・ 道徳教育とボランティアなどの体験活動が重要。

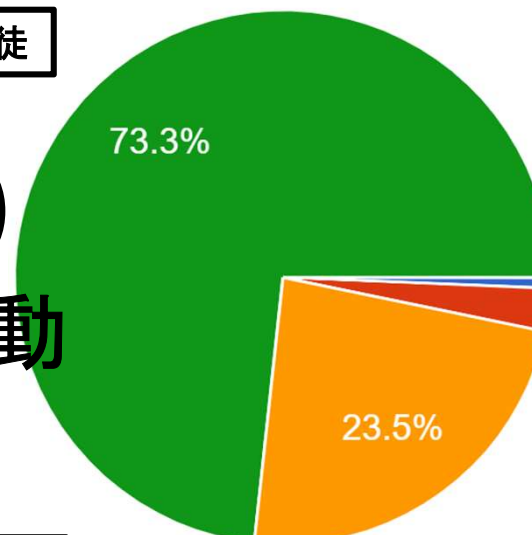
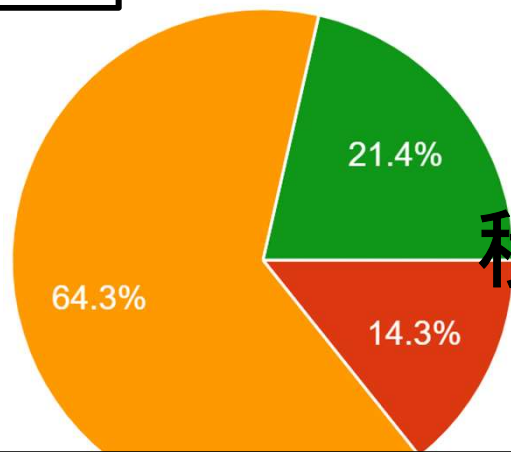
教職員

1 学期

生徒

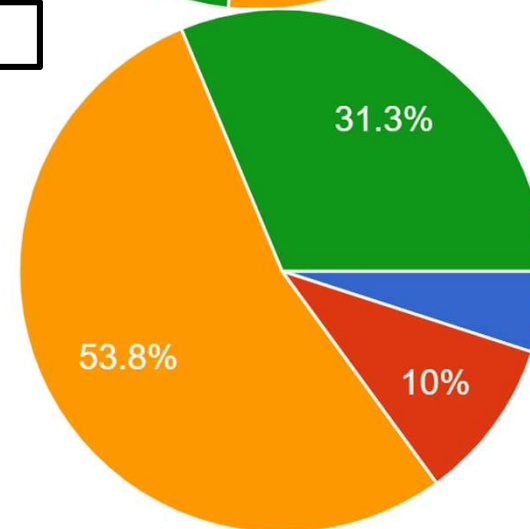
# 考察⑫

## 積極的な部活動



部活動に関しては教職員・保護者の否定的な考え方の集団が気になる。

保護者



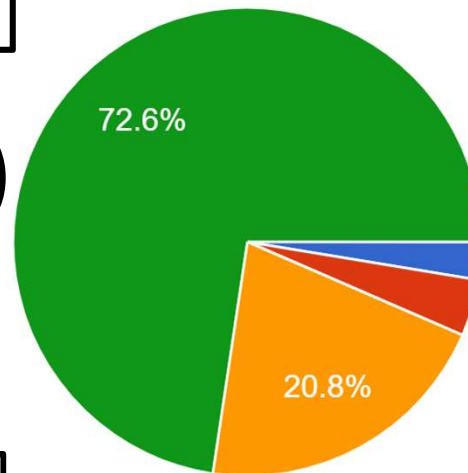
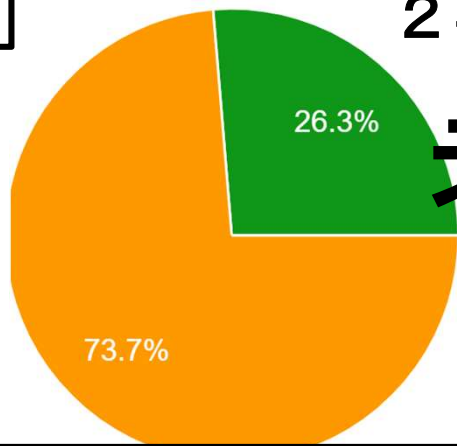
- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

教職員

2 学期

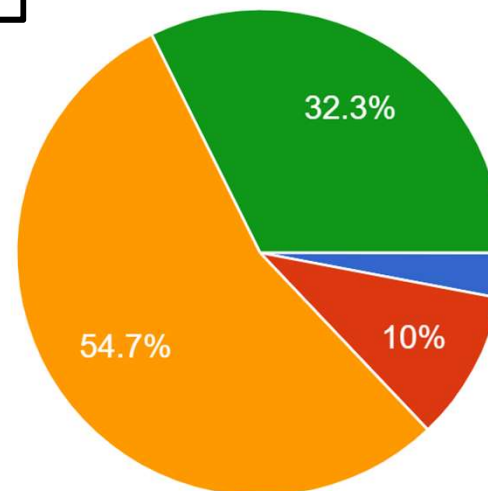
生徒

# 考察 12



部活動については、この数年間が大きな転機になる。しかし、生徒の大部分（93.4%）はやりがいを感じている。

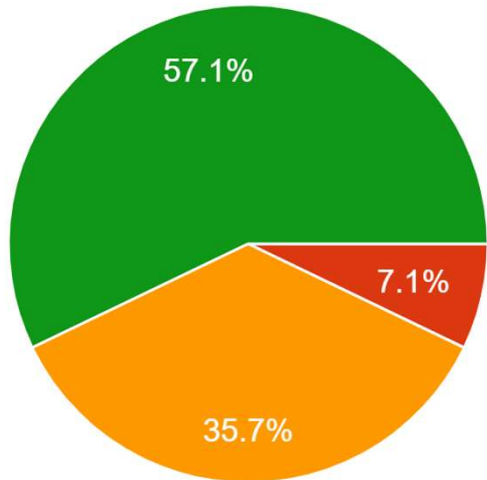
保護者



・ 生徒が充実感を感じる重要な部分であったが、今後、部活動の改革により、この部分を埋め合わせる役割はあるのだろうか。



教職員

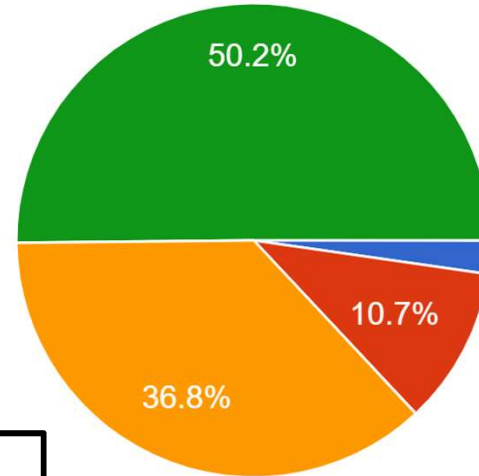


1学期

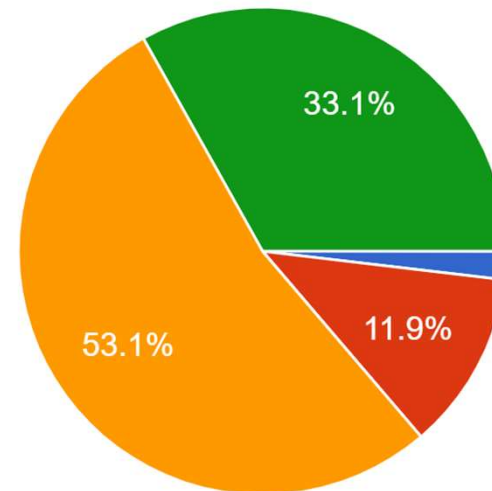
生徒

# 考察⑬

## 情報共有



保護者



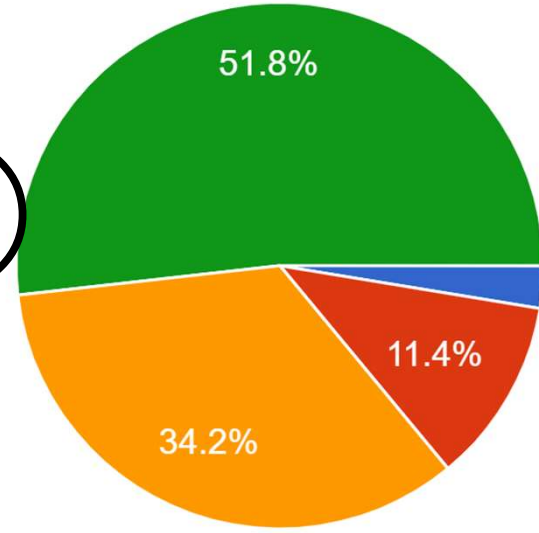
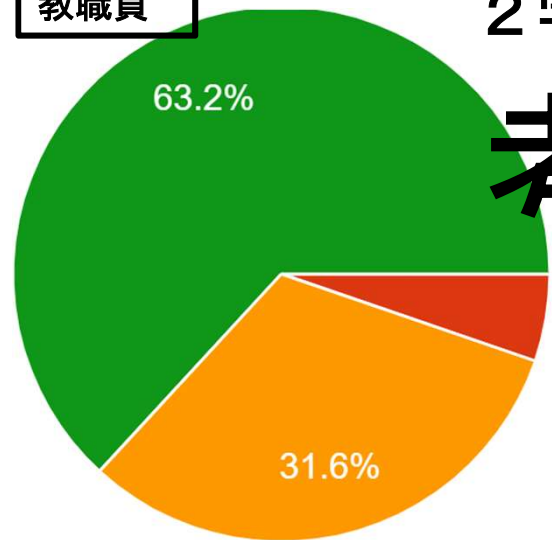
- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

教職員

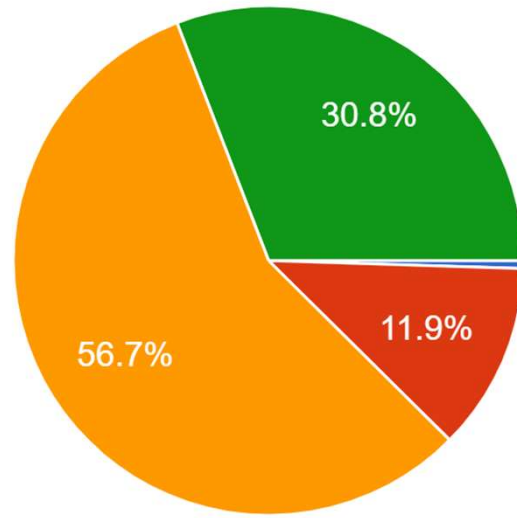
2 学期

生徒

# 考察 13



保護者



教職員も生徒も保護者も傾向は学期により変化はない。興味を持たない人は持たない。

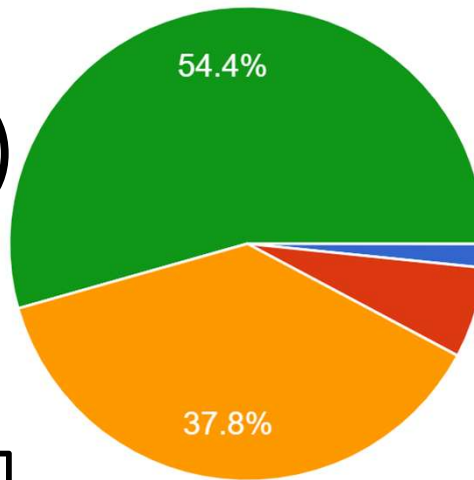
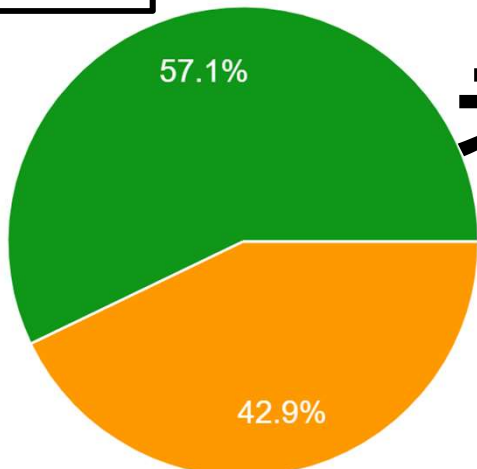
教職員

1 学期

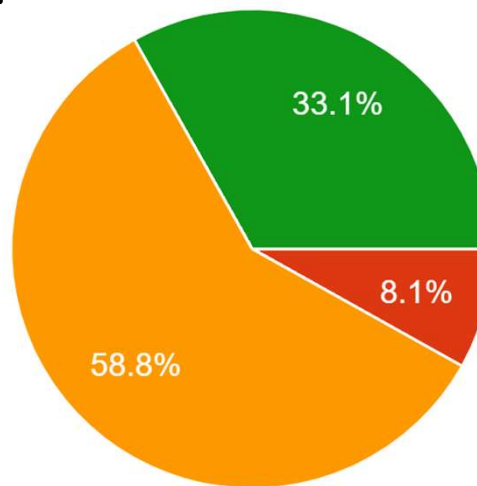
生徒

# 考察⑭

## 体力・健康



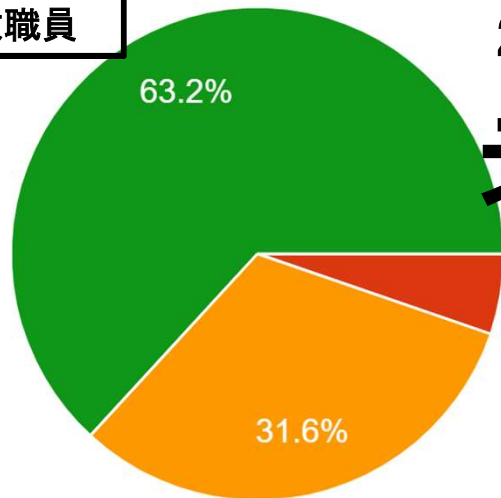
保護者



コロナ感染症対策のため、様々な規制があり、体力作りのチャンスが減少していることが原因の一つにあると考えられる。

- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

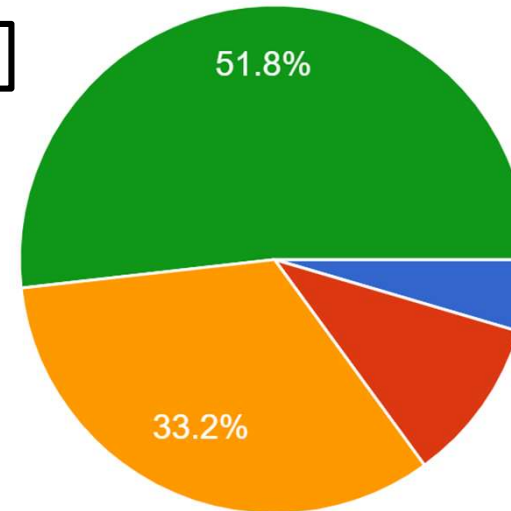
教職員



2 学期

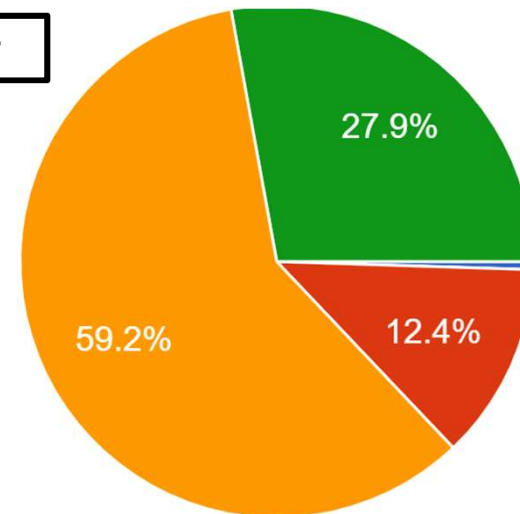
# 考察 14

生徒



コロナ感染症対策のため、様々な規制があり、体力作りのチャンスが減少していることが原因の一つにあると考えられる。

保護者



・この項目は、近年低調である。学期が進むにつれて、低調になる傾向がある。原因としては上記のことが大きい。

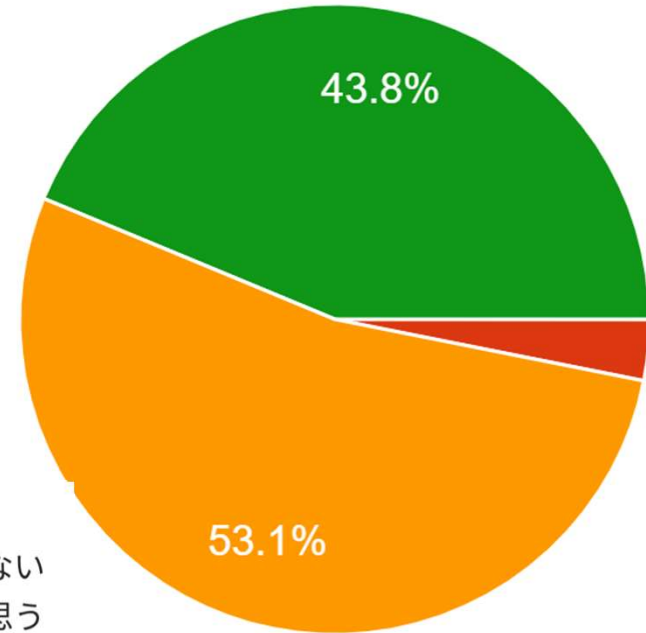
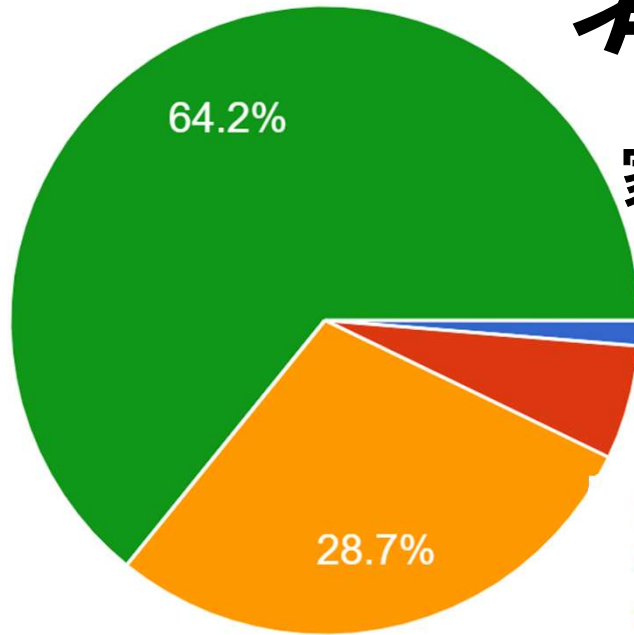
生徒

1 学期

保護者

# 考察⑮

## 家族の会話

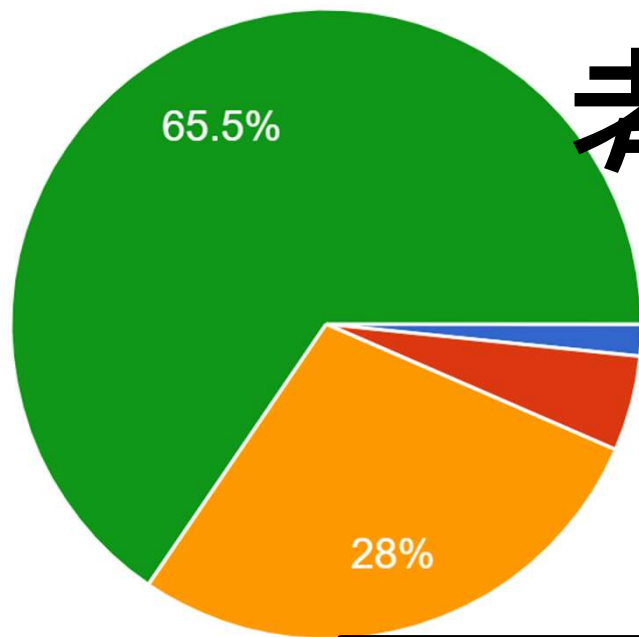


- 1 思わない
- 2 どちらかといえば思わない
- 3 どちらかといえばそう思う
- 4 そう思う

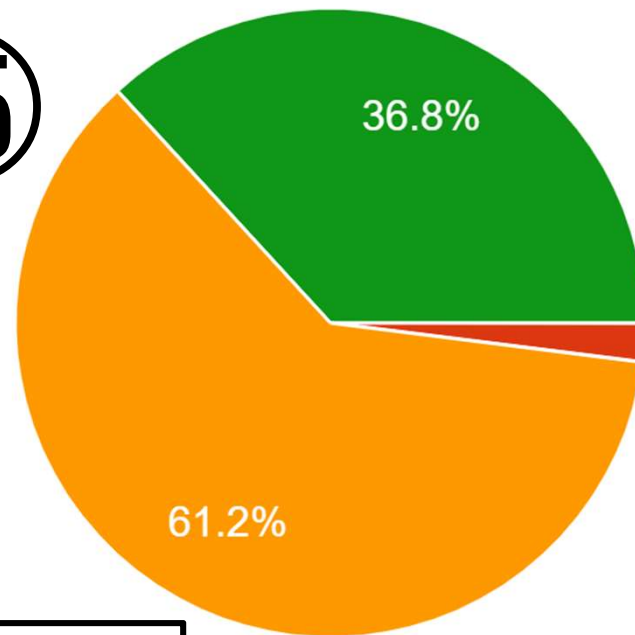
生徒

2学期

保護者



# 考察⑮



学期を問わず、親子関係が良好な家庭が大半を占める。しかし、保護者の方が見方が厳しい。

## 令和4年度の成果と課題

- ・教職員については1学期より2学期に改善の傾向がはっきりとある。特に若年層の教職員の不安が払拭され、成長が見られる。**成果**
- ・考察⑦「進路指導」（将来の夢に対して話をする）が家庭内で不十分である。PTA活動等を通じて啓発をする必要あり。**課題**
- ・考察⑧「あいさつ」についても東中学校の誇るべき項目であったが、コロナ対策で声を出さない経験で育っている生徒たちに新たな方策を模索する必要あり。**課題**
- ・考察⑩「情報モラル」について、今後もデジタルシチズンシップ研修等に取り組む必要あり。**課題**
- ・考察⑭「体力、健康づくり」において、生徒の中にできていないグループの固定化が見られる。保健体育科を通じて、全行的な取組を要する。**課題**